過去の助動詞

意味	過去	
語	き	けり
未然形	（せ）	《けら》
連用形	○	○
終止形	き	けり
連体形	し	ける
已然形	しか	けれ
命令形	○	○

「き」

意味　過去（直接体験）　～た

接続　連用形

※カ変　こ―し　き―し

しか　しか

サ変　せ―し　し―き

しか

・今は昔、藤原為時といふ人ありき。

「けり」

意味　過去（間接体験）　～た

詠嘆　～だなあ

接続　連用形

・今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。

・竜は雷神の類にこそありけれ。

完了の助動詞

完了				下二段
つ	**ぬ**	**たり**	**り**	
て	な	たら	ら	
て	に	たり	り	
つ	ぬ	たり	り	
つる	ぬる	たる	る	
つれ	ぬれ	たれ	れ	ナ変
てよ	ね	たれ	れ	ラ変

「つ」「ぬ」

意味　完了　～てしまう　強意・確述　きっと…、必ず…　並列　…たり

※「つ」は意志的な動作について、「ぬ」は自然的な状態について用いる。

接続　連用形

・潮満ちぬ。風も吹きぬ**べし**。

・ほととぎす鳴きつる方をながぬればただ有明の月ぞ残れる

・行きつ戻りつ。

「たり」「り」

意味　完了　～てしまう　存続　～ている　～てある

・まさしく見たりと言ふ人もなく、そらごとと言ふ人なし。

・心あてに折らばや折らむおきまどはせる白菊の花